
◎一般質問

○議長（渡辺文彦君） 日程第1、先週に引き続き一般質問を行います。

質問の通告がありますので、発言を許します。

◇ 深 澤 守 君

○議長（渡辺文彦君） 一般質問を続けます。

通告順位6番、深澤 守君。

（5番 深澤 守君 登壇）

○5番（深澤 守君） 皆様、おはようございます。

長嶋町政では、「常に議会と対立し・・・」と言われてました。対立では何も生まれません。

深澤町長は、「対話を重視する」と選挙公約を掲げております。行政と議会がしっかりと対話して、松崎町の町民の皆様が、誇りを持てる松崎町にしていきたいとの思いを込めて2点一般質問をさせていただきます。

大きい1、町長の行政運営について。

1 選挙公約に、町民の皆様と対話し町政運営をしていくということがありますが、町民の皆様との対話をどのような形で実行していきますか。

②施策を遂行する上で、議会との十分な対話が必要だと思います。スムーズに対話を進めるためには、どのような形で実行していきますか。

③今後の役場職員の人材育成が重要とのことですが、どのように実行していきますか。

大きい2、総合計画作成について。

1 総合計画の策定は、今までのコンセプトに基づいて策定していきますか。それとも、新しいコンセプトに基づいて作成して行きますか。

②総合計画を策定するのに、2030プロジェクトを組み込む考えはありますか。

以上2点について、壇上より質問させていただきました。

（町長 深澤準弥君 登壇）

○町長（深澤準弥君） 改めましておはようございます。

深澤議員の一般質問に対する回答をさせていただきます。

まず初めに、町長の行政運営について。

①選挙公約に皆様と対話し町政運営をしていくとありますが、町民の皆様との対話をどのような形で実行していきますか、という質問に対してでございます。

私は選挙期間中、町民の皆様との対話の重要性を訴えてまいりました。対話を通して、私の考え方をしっかりと町民の皆様にお伝えするとともに、町民の皆様の様々な声に真摯に向き合い、行政と町民の皆様が共通認識を持って、共同でまち作りを進めていくことが重要であると考えております。特に、まちづくりへの参加協力者が多ければ多いほど、光輝くまち実現の可能性は高くなると信じております。

新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、町民の皆様との対話を深めるためワークショップの開催をはじめ、地域で活動しているグループやまちづくり団体の皆様とも積極的に意見交換をしてまいりたいと思っております。

②政策を遂行する上で、議会との十分な対話が必要だと思います。スムーズに対話を進めるために、どのような形で実行していきますかという質問でございます。

深澤議員がおっしゃった通り、議会と行政は車の両輪とも言われ、この両輪がしっかりとしなければ、車はうまく前に進むことができません。すなわち、円滑な行政運営を行っていく上では、行政と議会が対等の立場に立ち、お互いに尊重しあい十分な議論対話を重ねる必要があることは言うまでもございません。

全員協議会や議会で説明したからそれでいいということではなく、勉強会なども踏まえ、日頃から十分なコミュニケーションおよび議論をし、合意形成を図ってまいりたいと思っております。

③今後の役場職員の人材育成が重要とのことですが、どのように実行していきますかという質問に対してです。

現在の多様化し急激に変化し進んでいる社会にしっかりと適応し、行政運営を行っていく上で、職員の意識、資質向上は、図らなければならないと思っております。私は就任式におきまして、三つの事を呼びかけました。

一つは学ぶことです。

二つ目は、自ら考えること。

そして、最後にそれを踏まえた上でしっかりと行動、実践することでございます。

これは今の社会変化の激しい中で、この変化に乗り遅れないよう新しいことをしっかりと学び、これまでの考えにとらわれず、しっかりと行動に繋げていただきたい。そういったことができる職員になっていただきたい。

人材育成はこれまでのように、ただ研修に参加すれば育成できるというようなものではないと思います。あらゆる方策、手段を使い、人事評価制度等の活用も含めてポテンシャルの高い我が町の職員の意識改革と、資質向上図ってまいりたいと考えております。

2番、総合計画策定につきましてです。

①総合計画の策定は、今までのコンセプトに基づいて作成しますか。それとも、新しいコンセプトに基づいて作成しますかという質問でございます。

次期総合計画につきましては、令和5年度から令和14年度までの10年間の新たな計画となります。先日高柳議員の一般質問でも回答させていただいた通り、これから住民アンケートや、関係団体へのヒアリング。現計画の事業評価等を踏まえて、方針や政策等を検討していくこととなりますので、新しいコンセプトに基づいて策定することとなります。

②総合計画を策定するのに、2030プロジェクトを組み込む考えはありますかという質問に対してです。

2030プロジェクトにつきましては、町観光協会、伊豆半島ジオガイド協会、静岡大学といった産官学が連携し、中高生をはじめ多様な方々に参画してもらい、2030年に向けて持続可能なまちづくりを目的に実施しているものです。このプロジェクトでは、13のゴールに向けてそれぞれのチームまた二つのスタディグループで活動し始めており、その活動の中で出た意見につきましては、団体、住民からの意見としてしっかりと総合計画に反映してまいりたいと考えております。

○5番（深澤 守君） 一問一答でお願いします。

○議長（渡辺文彦君） 許可します。

○5番（深澤 守君） 今回の町長選に関しまして、今までの町長選挙に比べて特色ってというのがですね、すごく若い子たちが今、町政についていか町長選に対して、すごく関心を持ってくれました。一生懸命活動してくれました。

今、若い人たちの政治熱。町長に対する期待。政治熱ってのがたくさんあって、関心あると思います。この関心があるところに、まちづくりのために参加していただくっていうところ

ろは、これからの町長の力量にかかってくるのではないかと思います。

その中で、やはり積極的に参加していただくために、今どのような施策を考えているのか町長に答弁願います。

○町長（深澤準弥君）　ありがとうございます。

今、議員がおっしゃった通りですね、自分が今回選挙戦に出馬を表明した際に、たくさんのいわゆる若い方々、若い方々だけではなかったんですけども、多くの方が町のことに関心を示していただきました。非常にありがたいのと、心から感謝している次第でございます。

ただ、選挙のためだけで動くのではなく、今後のまちづくりに対しての協力、参加といったものも含めて、今回のご支援いただいた方々に、ぜひ参加していただきたいと思っております。今までとは違うところは、やはり自分事としてこの地域を何とかするんだと。そういった考え方を持てるような、発信の仕方を工夫をしていかなければならない、そのように思っております。

やはり、若い人、お年寄り関係なくですね、この地域に住んで、ここを活性化しようとしてる方々の全ての方が、できれば関心を持ち、できれば参画していただくことが地域づくりの根幹であるとは私思っておりますので、できるだけそのような形で参画しやすい、もしくは意見を吸い上げやすいような環境づくりをぜひ構築してまいりたいと思っております。

○5番（深澤　守君）　その住民の参加とか、その意見を吸いやすいということについては、やはりその情報というか、今役場が何を考え、何が必要かっていうことの情報発信っていうのがすごく重要になってくるのではないかというふうに思っております。その中で、何代か前の総合計画等を見ると、なかなか松崎町は情報公開が進んでないっていう部分もありますので、やはり松崎町の考え方なりっていうものをどんどん情報発信していかなければいけないと思いますけど、その辺の情報発信についてこれから改める点とか、こういうふうにしていきたいなっていう部分がありましたら、お答え願えますか。

○町長（深澤準弥君）　情報発信につきましては、もう何年も広報とか回覧とかという形で発信をできています。ただ、やはり行政の発信力っていうのは非常に弱くて、ただ発信したっていうだけでは伝わってないような状況もあります。これ実は、受け取る側もですね、関心の無い情報については、なかなかそこに目を向けないというようなことがございます。その辺を、今回成人というか、選挙に興味を持ってもらった、今まで興味を持ってなかった

方々に対しても、今度は、自分が一挙一動足見ていただくような形でのやり方を考えていきたい。そして情報発信についても、今までの情報発信だけではなく、新たな新しいツールや方策があると考えておりますので、一番情報・・こんなデジタルの中であっても、やはりロコミという伝わり方が非常にはっきりと伝わりやすいというようなところもございますので、デジタルとアナログの融合をしながら、しっかりと情報発信をしていきたいと考えております。特に、金曜日の議会の初日でもどなたかおっしゃっておいりましたけども、なかなか新聞マスコミ等に発信が非常に少なくなっているというようなことが懸念されていまして、そういったところは積極的にマスコミ等も協力を仰ぎながら、いろんな方向から発信をしてまいりたいと考えております。

○5番（深澤 守君） 情報発信もそうなんでしょうけど、例えば何かの事業をやることにしても、一つ成功事例があると、逆に言うと感心度合いってのがすごく違ってくるんだと思うんですね。その点につきまして、今いろいろな役場の方としても補助金だとか事業についての助言だとかって、そういうものがあると思うんですけど、なかなかそこまでたどり着けないという部分もありますし、またちょっと使い勝手の悪い部分もあるんですけど、その点についてやはり町民の、松崎町はどうしても民の力が弱いんで、やはりそこんところをしっかりとサポートして使いやすい状況を作るっていうのも、やはりその結果を見せるっていうことで、町民の皆さんの関心を引くっていう事にも繋がると思うんですけど、その辺の関係について町長はどのようにお考えになっているかお答えください。

○町長（深澤準弥君） 町民の方々が何かをするときのいわゆる補助金や助成金といったところなんですが、松崎が、町が単独で潤沢な補助金とかを用意できる状況ではないので、今ある制度の中でうまく活用していただきたい。もしくは、その他の外部団体、そういったところの助成金なども使っていただければ一番ありがたいと思います。

ただ、例えば町としても、補助金、助成金を国や県に予算として引っ張っていきたくて思ったときにも、こういうことをやりたいけど、どこに行ったらいいかわからないというようなことが非常に多くあります。これは多分、同じようなことが町の方もあるんじゃないかと思っておりますが、そういったところにつきましては、やはりこういったことをやりたいというようなことを積極的に申し出ていただくことが、こちらの相談に乗るチャンスにもなりますので、そういった形でお申し出いただければよろしいかと思います。

なかなかこちらから全ての人に多種多様なメニューを与えるというのが非常に難しい、こ

れはもう国県のメニューもそうなんですけれども、そういったところで、やはり先ほど申し上げました通り、対話やコミュニケーションといったものが非常に生きてくるんじゃないかと思いますので、またそういったお声を吸い上げていただいたときにはですね、私達職員だけではやはり耳も限られますので、皆様がその耳を開いていただいて、こちらへお伝えいただくといったこともぜひご協力いただければと思っております。

○5番（深澤 守君） 今、町長がおっしゃった通りです。町議の仕事というのは、議会で議論するだけではなく、町民の皆様の声を聞きながら行政の橋渡しとして活動するという活動内容もありますし、また県、国等にですね、陳情に皆さんと一緒に行くっていうのも、議員の活動の一環でありますので、是非また町長の方も、我々の方に声かけていただいて、いろいろのところに行ってですね、なるべくその松崎の発展のためにいろいろなところ行って予算を取って来るってこともやっていきたいと思いますので、ぜひ声かけていただければ、いつでも参りますのでよろしく願いいたします。

先ほど、2点の件なんですけど、今も言いましたように、町議というものは議会で議論するだけではなくて、やはり政策についても、やはり自分たちで考えていかなければならないという部分もありまして、なかなか今まで自分の活動を含めて、そういうことをやってたかっていうと少し疑問が残るところがあって、これからの時代はやっぱり町議もしっかりとしたその政策を持って、行政の方と共同してやってくってということが必要だと思いますけど、その辺のの受け入れみたいな形でやってくことっていうのは、町長可能なのでしょうか。またそういうのについて具体的な政策があるようでしたら、お答え願いたいんですが。

○町長（深澤準弥君） 当然、今の政策の提案とかそういったものは、議会の皆様もしくは議員の皆様からご提案いただき、その上でやはり対話をして進めていきたいと考えております。

ただやはりできることとできないこととか、状況とかタイミングっていうのがございますので、その辺も含めて、やはりこちらもまだ学ばなければならない点とか、情報を仕入れなければならないこともございますので、そういった意味で、先ほども勉強会等と一緒に議論ができるような機会提供ができればと思っております。

○5番（深澤 守君） 3番についてお伺い致します。

その前にちょっと関連質問させていただきますけどよろしいでしょうか。

○議長（渡辺文彦君） 内容は？

○5番（深澤 守君） 内容は、先日いただいた資料の中に監査委員会の報告について、職員の働き方の内容について報告あったんですけれど、やはりそれは職場の人材教育のことについての前段階として関連性があると思いますので、質問を許可していただければと思います。

○議長（渡辺文彦君） わかりました。許可します。

○5番（深澤 守君） ありがとうございます。

先日いただいた監査の資料の中の11月19日の報告書の中に、役場職員の働き方についての資料が入っておりました。これ前回についても質問させていただいて、あまり良い答弁をいただけなかった。これ、ちょっと内容については把握しております。

少し読ませていただきます。

勤務時間の時間外について各担当、職務でばらつきがあり、特定の課・人に集中しており業務の共通化による集中を平準化できないか検証願いたい。サービス残業が通常的になっており『公僕だから時間外はつけない』『予算がないからつけない』ってというような形でこれ、少し前のブラック企業であると、ここまで言われています。労働者として仕事をしたものを申請するのは当たり前のことなので意識を変えていただきたい。正常な時間外を申請し、担当の業務量を把握して数値化することで業務の改善、適正人事に結びつけるよう努力していただきたい。

これが勤務の時間外ですね。それから有休の取り方が少し足りないと、人員の体制について職員の長期休暇中と中途退職者による人員不足になってる課が多いので、人事異動に一つの課で一度に数名の担当替えることで業務負担が増加し、時間外増加の要因もなっている。担当機関に配慮した異動が必要だと思われるので、今後検討願いたい。

人員が少なくなっているところに経験のない担当者を投入することは、業務をスムーズに処置する上で障害になると思われる。というような答申が出てますね。

これ町長、間際まで職員でおりましたので、内容的にはすごく把握してると思います。これ例えばですね、職員研修やっても、自分たちの働き場所で幸福を得られないとか、つらい思いしてる人間にいくら研修しても、多分、心底笑顔で対応するってことはないと思うんですけど、これ先に職員研修する前に、ある程度役場の内部的なことを、外部でも、第三者でも入れて検討して、改善するっていう意思を示すっていうことも大切だと思いますけど。

町長その点についていかがでしょうか。

○町長（深澤準弥君） 私も10月31日までは、そちらの労働者の方でおりましたので、その内

容についてはだいたい承知しております。ただやはり労働するにあたって、ただつらいって
いう労働は非常に苦しいと思います。おっしゃる通りで。そこに、やはりやりがいや、自分
たちの考えそして、いわゆる公務員というのは、全体の奉仕者であるといった法律に基づい
た中で、業務をしなければなりませんので、その部分は、やはりしっかりと守っていきたく
いと思います。

ただ今、挙げられたいいくつかの中に、人事の関係、人事異動の関係や、そういったところ
もございますが、今実際に役場の中、恥ずかしい話ですけれども、非常に人間が足りなく
て、先ほどの1人とかに偏った負担が行ってるところではなく、ほぼほとくさんの方々が
負担を強いられていると、西伊豆や南伊豆町と人口そんなに変わらないんですけど、職員の
数が非常に足りてないというような現状の中で、やはりどこかでしっかりと変えていかなければ
ならない。

今回自分が新しくなったというところで、最初はやはり自分たちも痛みを伴う必要が、こ
れはもう仕方がないような状況でございます。今言った、人の配置を変えるっていうのが、
もう理想通りにはいかない。そういった状況です。

そこにつきましてはやはり、職員の意見もしっかりと聞きながらではございますが、ある
程度、我慢をしていただくことが出てくると思います。ただ、本当に必要な残業代とか時間
外であれば、その部分はしっかりと手当ををしていく必要はあると考えております。あと、
やはり、それぞれの役職の職員がもう一步、今実際に人が足りてないのもう一步先まで考
えて、しっかりと組織を守っていく必要があろうかと思えますので、その辺も含め、しっか
りと対話しつつ、この組織のポテンシャルをもっともっと引き出していきたいと考えており
ます。

○5番（深澤 守君） 基本的に僕が思う役場の職員の業務っていうのは、住民サービスです
とか、福祉を担ったり、それからインフラっていう重要な部分だと思うんですね。やっぱり、
役場の職員の方が、一生懸命やってくれば、それは住民サービスに繋がるものであるし、そ
れは町民の皆様が喜んでいただけることだと思います。ですけどこういう状態になってくると、
なかなかそこまで難しいのかなって気はします。

しかし、将来的な見通し。明るさっていうか、が、見えればまた今の状況よりも良くなるっ
ていう希望を持てれば、職員の皆様のモチベーション、先ほど町長が言ったようなモチベー
ションみたいなものも上がってくると思うので、そこはしっかりと今の、今はできないけどっ
ていうことでも構いませんので、やっぱ、将来の思ってる形で話を出していただければというふ

うに思っております。ぜひその辺は対応していただければと思います。

職員研修なんですが、具体的にどのような形で行っていくのかお答え願います。

○町長（深澤準弥君） 中で、職員研修っていうのをいわゆる自治体の専門の研修みたいなのもあるんですけど、とりあえず各自治体ごとにやはり抱えている課題や、職員の、居る職員の人間性や得手、不得手そういったものもございますので、まずは外部の人材も活用しつつ、中の職員のもう1回ポテンシャルを測る、もしくは方向性を町としてのさっき言った全体の奉仕者であるということをもう一度見直ししながら、しっかりと、先ほども議員がおっしゃったように、住民福祉に尽きると思いますので、そこに向かってしっかりと働ける。しかも、やりがいを持って、というようなところを、育成して意識改革をしながら、持っているポテンシャルをいかに発揮できるような人材育成を目指していきたいと思っております。

○5番（深澤 守君） 先ほど町長の『行動する』ということも、人材育成の一つとして入ってたわけなんですけど、先ほど言うように、今多様化してて一つの事についてはいろいろな、例えば福祉の部分も絡んでくるし、観光部分なんかも含めていろいろな部署が関連することがあると思うんですけど、現状だとなかなかその課をまたいで計画立てて行動するっていうものは、なかなか難しいと思うんですけど、その点を、前の町政では統括が串刺しにしてやるという方針で統括置いたんですけど、その課をまたいで皆で協力して一つのことを成し遂げるっていうことをするってことのお考えってございますか。

○町長（深澤準弥君） 私の方で選挙公約の中にもあったのは、『オール松崎で』という言葉を使わせていただきました。これについては、やはりいわゆる当然課を超えて情報共有できない情報もございます。そういったもの以外のところでは、人と人がこの狭い役所の中で突き合わせている中で、例えば「俺は聞いてない」とかではなく、自分から自ら「こういう状況はどうなってるんだ」と隣の課に聞けるような、意識を持てるような職員にもっともったになれるポテンシャルありますので、そこを風通しを良くしていきたい。せっかく新しい体制になっているので、その部分は鋭意努力していきたいと思っております。

○5番（深澤 守君） それでは大きい2番に質問を移りたいと思います。

これ前に聞いた話なんで、僕の認識が間違ってたなら訂正していただきたいんですけど。今までの総合計画の作り方っていうのがですね、現在の継続事業から引き続いて、将来後10年間でこれを成し遂げるっていうような未来志向型ではなくて、現在から引き継ぐ形の総合計

画の作り方だっというふうなことを伺ったことがあるんですけど、その認識でよろしいでしょうか。

○町長（深澤準弥君） 今までの計画の策定方針っていうのが、いわゆる国の方も含め、全体的な流れの中でフォアキャスティングといいまして、今おっしゃるように、積み重ねていつてその10年後を見据えるといったような状況が主流でございました。

ただ国連でSDGsですね、2030年のゴールを決めてやる、という話が出る前の段階で実はもうバックキャスティングという手法を持ってこれから計画を立てるべきだと。そこはなぜかという、今の積み重ねで10年たったところで、この変化ですね、社会の変化についていけないだろうということで、もう少しゴールを見据えて、しっかりとそこに向かって戻ってきて今何をすべきかということを考えるのが、スタンダードだというようなことで、これはSDGsがまさにそういったことになっております。

あとはカーボンフリーとかそういったものについても、全てバックキャスティングの手法で今地球のことを考えたりしておりますので、やはりそれが今主流になってきているので、そういった方法にやっぱシフトしていくのが、やはり地域の考え方としてもよろしいかと思っております。

特に今回、総合計画ちょうどいい機会で2030年のゴールということは、SDGsも実は第1回目のゴールがそこに設定されております。静岡大学の今やっているものについても2030年、いわゆる今の中高生ですね、今15歳18歳の子たちが10年後に25歳28歳になったときに、どんな松崎だったら自分たちは嬉しいかといったことをゴールに据えてですね、いろんなことを考えていただいている。自分たち大人も10年後に、10歳加算したときにどういった松崎であるべきかといったことをまず目標に設定する一番重要なことだと考えておりますので、そこに向かって、今10年戻って今何をすべきかをやはり考えていかなければならない。非常にこれは有効なことだと思っておりますので、今回結局、新しい体制になってるもので、いい機会でありますのでそういう方向で進めてまいりたいと思っております。

○5番（深澤 守君） 今答弁伺って、今までの積み重ねの総合計画を作る事から脱却して、2030年に松崎がこういうような形の町になって行くことを目指す。新しい形の総合計画を作っていくという認識でよろしいでしょうか。

○町長（深澤準弥君） 手法としてはそういった手法をとらせていただきます。ただ、やはり松崎は歴史と文化というものがしっかりと根付いてきておりますし、先人が今までずっと培

って来ていただいたこの松崎の礎である基礎の部分ですね。それをぶれるようなことではちょっと違うとは思いますが、やはり今までの歴史、文化や先人たちの思いに、いわゆる精神文化に基づいて、今の手法を用いて計画を立てていきたいというのが、今回の総合計画に対する方向性でございます。

○5番（深澤 守君） 3回ぐらい前でしたか、松崎町は画期的なことで『100人委員会』でしたか、その総合計画をそのままコンサルタントに頼んで作ってもらうのではなくて、住民参加という形で何回か議論を進めて総合計画を作ったという歴史があるんですが、今回、その総合計画を作るにあたって、そのような形で総合計画を作ってくっていう事は町長はお考えになっておりませんか。

○町長（深澤準弥君） 『100人委員会』を作ったときも自分もまだ職員でしたので、その辺は承知しておりますが、どうしてもその委員会立ち上げてとかっていう場合ですと、どうしても声の大きい方が前に出てきてしまいがちです。100人というのを当時、七、八千人いた中での100人ということで、いろんな役職の方がある程度は入ってきてたと思います。そういったことも当然必要とは感じておりますけれども、それ以外の部分のやはり今やってる、先ほど申し上げました2030のプロジェクトについては、いわゆる10年後25歳、10年後に28歳といった高校生たちですね、それ以下の子供たちも参加してるんですけども、そういった方々の意見をしっかりと吸い上げつつゴールを決めて、で皆さんの意見をしっかりと聞きたいと思っております。

どういった方法があるかなんですけども、いわゆるコンサルタントの得意とする分野は、統計の集計であつたり、計画の概略の形成だつたり、衣装であつたりの部分が多いとは思いますが、その持つてるノウハウもある程度コンサルタントによっては、いろんな傾向もありますので、そっちの傾向に流されるのではなく『松崎町らしい』というところに持ってきていたいと思っておりますので、またいろんな手法で、時間がなかなか限られてるんですけども、精一杯鋭意そこについては考えていきたいと思っております。

○5番（深澤 守君） 私も『100人委員会』の中に入っておりますし、議論の過程とか何かっていうのも実施で経験しております。それから、松崎町のいろいろな会合だとか何とかっていう、ところにも出させていただいておりますと、本当に発言する人っていうのは限られておりまして、なかなか他の人が言いづらいっていうか、そういう雰囲気もあります。それだと多分町長が言う対話だとか、新しい意見を吸い上げるっていうことはなかなか難しいん

ではないかと思っておりますので、そのところも、新しい町長でいろいろな考え方を持っておりますので、改善していただいてですね、実りある総合計画の意見として吸い上げていただけるように要望いたします。

もう一点なんですが、近くの総合計画作るにあたって、隣町、隣町って年中されると多分町長も嫌だと思うんですけど、何回か前は西伊豆町はコンサル頼まないで自分達で作ったっていうことも伺っております、その中で役場の職員さんが入ることによって役場の職員の質の向上に繋がって今の状況があるというような話も伺っております。

大変でしょうけど、なるべくその策定に当たって、役場の職員の皆様も入っていただくっていうことも大切ではないかと思いますが、その辺について町長いかがでしょうか。

○町長（深澤準弥君） 職員の参画というのは、当然各課が全部関わってきてますので、その辺も含めてぜひ参加はしているような形にはなっていると思いますが、今言うのは多分議論の場に出てきてというようなことかと思います。それについては、今までもちょっとやっぱり役所と地域が疎遠になってるようなところも見受けられるような話をちょっと伺ったりしているので、その辺は先ほどの話じゃないですけど、職員のやはりプライバシーとか私生活の部分にあまり負担がかからないような形で、業務の一環として地域に関わるということは必要かなと思いますので、その辺のバランスをしっかりと考えながら、今言ったようなことも考慮に入れながら策定に向けていきたいと思っております。

○5番（深澤 守君） 2番についてお伺い致します。

今、2030っていうので策定事業やってるっていうんですけど、なかなか2030について参加者が増えてかない、関心がないっていう事を伺っております。

今、先ほども言いましたように町長選であれだけ若い人たちが、町政に向けて関心を示しているときで『鉄は熱いうちに打て』と言います。今関心があるときに、2030への参画を進めてくっていうことができると思うんですけど、参加者を増やす方策っていうものを今町長お持ちでしょうか。

○町長（深澤準弥君） 得てして、役場の会議とか、役場のこういったイベントに対して、公募はしたり発信はしているんですけども回覧等も使って、なかなか興味のあるものでなければ参加しないっていう傾向は、実は松崎だけじゃないところもございます。ただ、今議員がおっしゃるように2030非常にいい形で動き出していますので、より関係者を増やしていきたいというようなことはちょっと考えておりまして、今回、自分の選挙に先ほども議員おつ

しゃっているように若い人たちが興味を持っていただいてるという部分では、こちらからも積極的にそういう人たちの世代に働きかけをして、やはり「お前に任せてあるんだよ」という声もございますが、やはりその部分をもう一度参画をして、自分たちが、この自分たち住んでる自分たちの町を作っていく、守っていくというような意識になっていただくことが、やはり自分も一番重きを置いていた『防災のまちづくり』も関連して参りますので、ぜひ多くの方を強制ではなく参画できるような方法をちょっと今模索しているところでございます。

○5番（深澤 守君） イベントだとかまちづくりで成功してるってところは、イベントをやると、なぜ参加するかっていうと、自分たちが楽しいからとそれから、そのまちづくりに参加するにはなぜか、これ下世話な話ですけど自分たちの利益になるために参加していくっていうのも、動機づけだと思うんですね。そこんところの将来、松崎がこういうようなものになりたいっていうものの意識づけみたいになっていう、やっぱりこういうプロジェクトの参加する目的になっていくんではないかと思います。これを発展させていくことによって、逆に言うと総合計画の意見を吸いやすくなるっていうのも出てくるとと思いますので、2030をもう少し活気づけるように、町長のお力でやって行っていただきたいと思うんですけど、先ほどその2030の組み込むっていう、お考えがあるという事なんですけど、具体的に、2030と総合計画って別のものなんですけど、これを結びつける形の方策っていうのはどのような考えでおられます。

○町長（深澤準弥君） 自分が考えてる中ですと、2030のプロジェクトと並行して動いています。

いわゆるさっき言った『100人委員会』もいくつかパートがわかれたと思います。当時やってたときに。その一つのパートの部分というような考え方で2030を位置付けすること、全く一緒じゃないんですけど、そういったようなパートの部分でも考えられるというようなことでの位置づけを今考えております。

○5番（深澤 守君） アフターコロナに向けてですね、これだけ世の中が変化してきてる時代で、過去の経験値だとかっていうのはなかなか難しい時代に、これから10年松崎をどうするかっていうものは、やっぱ難しいと思うし、大変だと思いますけど、これ将来の松崎町の不振、発展するかそのまま没落してって淋しい松崎になってしまうかっていうののわかれ道だと思うんで、やはりそこはしっかりと住民のニーズ、それから将来の世の中の流れを見越

して、しっかりと計画を立てていただきたいと。計画を立てるのではなくて、やっぱ町民、町議もそうなんですけど、やっぱり言った以上はしっかりと自分たちが責任を持ってやってくってというものの体制を作ってくってことも必要だと思いますので、ぜひその辺はよろしく願いいたします。

少し時間早いんですけど、まとめに移らせていただきます。

戦国大名の武田信玄がですね、『人は石垣、人は城』自分は城を作らないで、人が守るからしっかりと、領国経営ができるっていう話をしておりました。やはり役場もそうだと思います。

やはり人材が一番大事ですので、これからいろいろと町長の方も立て直すのには大変だと思いますが、やはり町民のためにもなることですので、しっかりとやっていっていただきたいと思います。

やはりその総合計画。先ほども言いましたように総合計画を立てるにしても、やはり行政とそれから町民の皆さんが一緒になって町を作ってくってことも重要だと思います。その中で、我々議員としても先ほど申したように、町民の皆様の意見を聞きながら行政に反映していただき、必要あるとあらば県でも国でも一緒に行ってきますので、またその辺のこともよろしく願いいたします。

以上これで一般質問を終わらせていただきます。

○議長（渡辺文彦君） 以上で深澤守くんの一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

（午前9時51分）
